

「光」

作詞作曲：奏音69

夢醒[めざ]めるのは、いつも深い森の小部屋。
月も、影もなく……。
燃え尽きたような暗闇[くろ]。
凍えるほど静寂[しずか]。
枯齡[かれ]た木が嗤う。

扉を開けて逃げ惑っても、未知[みし]らぬ迷路[まよい]ろ]。
そこに射し込む、夜を切り裂くような
光が――

さあ現実[リアル]を視ましょう。恐がらずに、その眼で。
永い眠夢[ねむ]り醒ますのは Reflexión de la luz.
ただ黒く塗り潰す今日も、暗い過去も
光[きみ]の声を聞けば、七色に染まってゆく。

乖けたのは時間、逃げていたのは不安。
よく視れば何も。

波動[なみ]のように粒子[つぶ]のように、それは伝ってゆく。
この先どこに向かう？ 照らすべき場所を、教えて。

さあ瞠るような世界。窓を開けて、その手で。
深い森を照らしてく Reflexión de la luz.
隙間を縫う細い光が途絶[た]えかけても
鏡[きみ]に反映[かえ]されて、ふたたび展[ひろ]がってゆく。

光よ。
さあ現実[リアル]を視ましょう。恐がらずに、その眼で。
永い眠夢[ねむ]り醒ますのは Reflexión de la luz.
ただ黒く塗り潰す今日も、暗い過去も
光[きみ]の声を聞けば、七色に染まってゆく。